

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	クール・ノイズ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.560	△RG	0.040	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：クール・ノイズ 5in

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：クール・ノイズ 4in

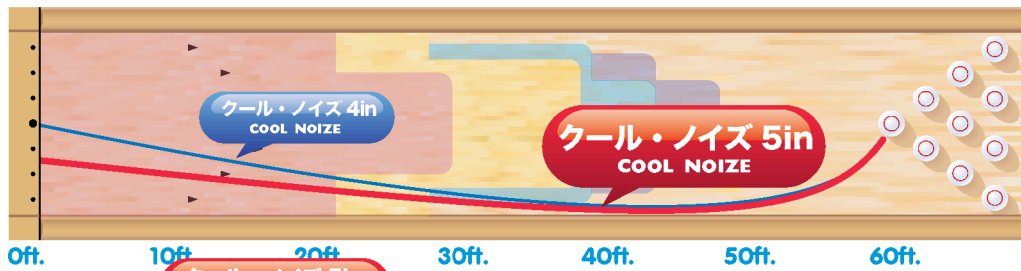
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

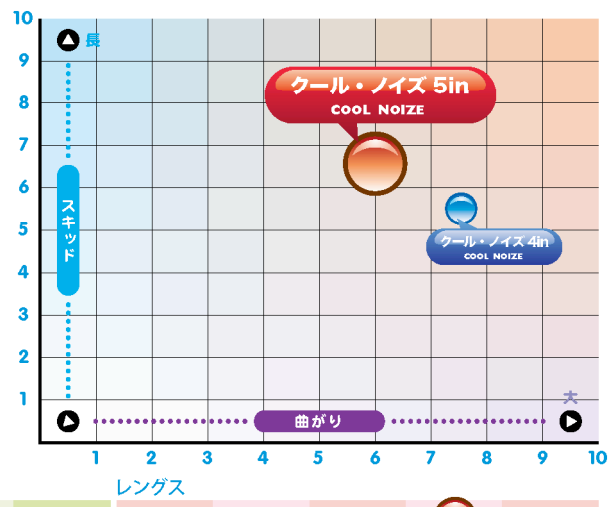
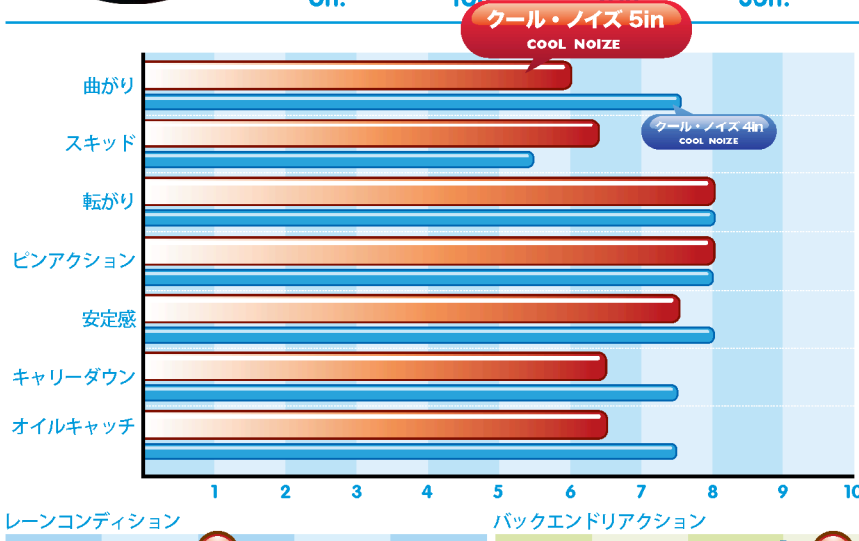
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー 2000 番
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション

バックエンドリアクション

レンジ

Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

初代NOIZEからLOUD NOIZE、そして今回のCOOL NOIZEへ。
 初代NOIZEはリサーチエンスと同じカバーストックのNew ERA Reactiveを使い、オイルに対しての強さを求めました。続くLOUD NOIZEはリサーチエンスカバーのパールバージョンのPearl New ERA Reactiveを採用し、スキッド感とドライゾーンでの反応の良いリアクションを目指しました。今回のCOOL NOIZEはスキッド・キャッチ力、ドライゾーンでの反応とでトータルにバランスが取れたと定評があったライバルと同等のカバーストックにパールを混入し、NOIZEとLOUD NOIZEの丁度中間のリアクション性能で発売されます。
 ただ唯一US発売と違うのは、日本向けは#2000アブラロンポリッシュです。
 我々ABSがこのCOOL NOIZEに求めたものは、曲がるボールが主流とされる中、このコア特性とカバーストック特性を活かし、手前のスキッドを重視させてあえてミディアムコンディションでの「スペシャリスト」のボールにCOOL NOIZEの焦点を合わせた為のポリッシュ加工です。しかし今回レポートにもあるようにABSホームページ上でUSタイプの#2000アブラロン加工(PAP-ピン4インチ)と、日本発売#2000ポリッシュ(PAP-ピン5インチ)を比較投球致しました。
 落ち着いた曲がりながらもオイルに強いファーストボールで使用するとお考えならば、ドリル前#2000アブラロンで再加工し、手前のスキッド重視で使用するならば箱出しのまま使用して頂ければ良いでしょう。各々表面加工により、強いレイアウトか抑えたレイアウトかをチョイスし、自分にあったCOOL NOIZEに仕上げていただければと思います。

特記事項

RG2.560 △RG0.040のスペックはNOIZE及びLOUD NOIZEと変更はなく、ライバルと同等のカバーストックにパールを混入。走りを加えたカバーとTI-Bossコアとのコラボレーションです。